

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望 = ドル円は高値圏でのみみ合いか

[5月18日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月11日～5月15日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	156.61	158.67(15)	156.45(11)	158.39	+1.71
ユーロ・ドル	1.1780	1.1795(11)	1.1632(15)	1.1640	-0.0147

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	61,409.29	-1304.36	日本10年債利回り	2.716	+0.233
ダウ平均株価	50,063.46	+454.30	米10年債利回り	4.482	+0.128

=====

<来週の主要経済統計等>

- 18日 英5月ライトムーブ住宅価格
中国4月小売売上高、中国4月鉱工業生産指数
米3月対米証券投資
主要7カ国(G7)財務相・中央銀行総裁会議(19日まで)
- 19日 NZ第1四半期生産者物価指数
日本第1四半期GDP1次速報
日本3月鉱工業生産指数確報値
英4月雇用統計
ユーロ圏3月貿易収支
カナダ4月消費者物価指数
- 20日 英4月消費者物価指数、独4月生産者物価指数、英4月小売物価指数
独4月生産者物価指数
ユーロ圏4月消費者物価指数確報値
米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(4月28～29日開催分)
イスラエル決算
- 21日 NZ4月貿易収支
日本4月貿易収支、日本3月機械受注
豪4月雇用統計
小枝日銀審議委員講演
日銀債券市場参加者会合
独5月製造業PMI速報値、独5月サービス業PMI速報値
ユーロ圏3月経常収支
ユーロ圏5月製造業PMI速報値、ユーロ圏5月サービス業PMI速報値
英5月製造業PMI速報値、英5月サービス業PMI速報値
米新規失業保険申請件数、米5月フィラデルフィア連銀景況指数
米4月住宅着工・許可件数
米5月製造業PMI速報値、米5月サービス業PMI速報値
- 22日 NZ第1四半期小売売上高
日本4月消費者物価指数
英4月小売売上高
独5月ifo景況感指数
カナダ3月小売売上高、カナダ4月鉱工業製品価格
米5月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】今後のドル円は、米国とイランの戦闘終結に向けた協議の進展や米重要経済指標の動向、ハッセント米財務長官と日本側との会談内容などに左右されそう。ただ、そうした情勢下においても、160円台をうかがうような円安進行に対して

は、政府・日銀が断固たる阻止に動くと思われる。したがって、様々な材料に翻弄されつつも、ドル円は高値圏での神経質な展開が見込まれるとした。

【ドル円はじり高で上昇も介入警戒感が上値を抑える】

5月11日の週のドル円は156円台後半から、158円近辺までもみ合いながら上値を追う展開となった。158円接近では政府・日銀による介入が警戒され、上値を抑えられやすくなったものの、14日の海外市場で158円を上抜けると、15日は緩やかに上昇を続けた。

週明け11日はもみ合いながら上値を追う展開となった。東京市場では、ドル円は円安がやや優勢となった。米国とイランの戦闘終結に向けた合意が進むとの期待もあったが、週末に示されたイランから米国への回答について、トランプ大統領が受け入れられない意向を示したことで、紛争長期化への懸念が有事のドル買いや原油買いにつながった。ドル高円安が進み、157円台前半まで上昇した。ロンドン市場ではもみ合いとなり、NY市場では157.27付近まで上値を伸ばした。

12日に片山財務相とベッセント財務長官との会談を終えて、片山財務相は「日米間で非常によく連携できていることを確認した。今後も日米財務大臣共同声明に沿って引き続き連携していくことを確認し、全面的に理解を得た」と発言した。共同声明では過度な変動があった場合に介入の検討が示されているが、目新しさのある発言ではなかったことから、市場は冷静な反応を見せ、じりじりとしたドル高円安につながった。

午後に157.75まで上昇した後、156.78まで急落を見せた。通貨当局が防衛ラインとしていると市場が予想している158.00円を前に、市場の警戒感が広がる中での急落であったことから、介入の実施が疑われた。もっとも値幅は1円に届いておらず、実際に介入があったのか、レートチェックであったのかは不透明なまま。その後は緩やかに上昇した。午後9時半に4月の米消費者物価指数が発表された。市場予想を上回ってドル買い円売りに傾いたものの、それほど大きな動きとはならず、157.00近辺で推移した。

13日はもみ合いを続けながら、157円台半ばから後半まで緩やかに上昇した。この日発表の4月の米生産者物価指数（PPI）が市場予想を上回る伸びとなったことを受け、ドル円は157.93近辺まで上値を伸ばした。前日の米消費者物価指数（CPI）に続き、米生産者物価指数も予想を上回る結果となったことで、インフレ圧力が警戒される中、14日は157円台後半で高止まりとなった。

14日のドル円は157円台後半でしっかりした動きとなり、昼頃に157.99を付けた。157.90台でもみ合いとなった後、一時157.54まで急落した。日本銀行の増審議委員が講演で、中東情勢緊迫化に伴う景気不振の兆しははっきりした数字で表れないのであれば「できる限り早い段階での利上げが望ましい」と発言したことを受けて、円買いが一気に強まった。同委員はこれまで中立派とみられており、4月27日・28日の会合（6対3で据え置き）では据え置きに投票していただけに、タカ派寄りの発言がサプライズとなり、一気に円買いを誘った。もっとも、その後はすぐに反発し、157.50前後がサポートとなって下値の堅さが意識された。

NY市場で157.30台まで急落したものの、すぐに買いに支えられて158円台に乗せ、その後は15日にかけて緩やかに上昇している。

【イラン紛争の動向やFOMC議事要旨に注目】

5月18日の週に予定される日米の経済指標やイベントは、18日に米3月対米証券投資、19日に日本第1四半期GDP1次速報、日本3月鉱工業生産指数確報値、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（4月28～29日開催分）、21日に日本4月貿易収支、日本3月機械受注、米新規失業保険申請件数、米5月フィラデルフィア連銀景況指数、米4月住宅着工・許可件数、米5月製造業PMI速報値、米5月サービス業PMI速報値、22日に日本4月消費者物価指数、米5月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

北京での米中首脳会談を終えて、米国とイランの戦闘終結に向けた動きが再び注目される。原油価格が1バレル＝100ドル近辺で高止まりを続ける中、その動向が相場を

左右しそうだ。両国の主張には依然として大きな隔たりがあり、戦闘終結に至るにはまだ紆余曲折がありそうだ。

日本時間 21 日午前 3 時には、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（4 月 28～29 日開催分）が発表される。この会合では大方の予想通りに政策は据え置きとなったものの、委員の見解が分かれており、決定は 8 対 4 の据え置きとなるという異例の展開を見せた。今回の議事要旨では、その分かれた見解の詳細が改めて注目されることとなる。

この時はハマック、カシュカリ、ローガンの 3 氏が緩和的スタンスに反対票を投じた一方、ミラン理事はこれまで通りに利下げを主張した。タカ派（利上げに前向き、あるいは利下げに極めて慎重）的な意見が予想以上に強かった場合には、米長期金利の上昇やドル買いを誘発する可能性がある。

4 月の米消費者物価指数や米生産者物価指数の上振れを受け、インフレ警戒感が改めて高まっている。また、原油価格も 1 バレル = 100 ドル近辺で高止まりしており、米長期金利は上昇傾向にある。こうした中、ドルは堅調な推移を見せている。ドル円は 158 円近辺での為替介入とみられる動きにより上値を抑えられる場面もあったが、足元では同水準を上抜けており、介入への警戒感と米ドル高の勢いが交錯する状況となっている。先行きのドル円は高値圏でのみみ合いになるとみられるが、介入への警戒感が強まる中で神経質な展開が続きそうだ。目先の予想レンジは 154.00～160.00 円。

【ユーロドルは上値の重い展開か】

原油高などを背景に、4 月のユーロ圏消費者物価指数速報値（4 月 30 日発表）は前年比 +3.0% となり、市場予想の +2.9% や前回の +2.6% を上回った。また、5 月 6 日発表の 4 月のユーロ圏生産者物価指数（PPI）も、市場予想や前回値を上回った。

欧州中央銀行（ECB）による利上げは年内 2～3 回程度が見込まれているものの、このところはドルの強含みを受け、ユーロドルは高値圏から調整を見せている。テクニカル面では 21 日移動平均線を割り込み、5 日移動平均線に上値を抑えられていることから、目先は軟調な推移となりそうだ。目先の予想レンジは 1.1500～1.1800 ドル。

英国ではスターマー首相に対する退陣要求は極めて深刻なレベルに達しており、政権発足以来最大の危機に直面している。直近の地方選挙での歴史的な大敗を受け、党内外から「即時辞任」または「退任時期の明示」を求める声が噴出している。こうした政局の混迷に伴うポンドの弱さに加え、ドルの強さから、ポンドドルは上値の重い展開が続くとみられる。このため、当面は上値の重い展開が継続する見通しだ。目先の予想レンジは 1.3350～1.3650 ドル。

今後の日米以外の経済指標としては、18 日に英 5 月ライトムーブ住宅価格、中国 4 月小売売上高、中国 4 月鉱工業生産指数、19 日に NZ 第 1 四半期生産者物価指数、英 4 月雇用統計、ユーロ圏 3 月貿易収支、20 日に英 4 月消費者物価指数、英 4 月生産者物価指数、独 4 月生産者物価指数、ユーロ圏 4 月消費者物価指数確報値、21 日に NZ 4 月貿易収支、豪 4 月雇用統計、独 5 月製造業 PMI 速報値、独 5 月サービス業 PMI 速報値、ユーロ圏 3 月経常収支、ユーロ圏 5 月製造業 PMI 速報値、ユーロ圏 5 月サービス業 PMI 速報値、英 5 月製造業 PMI 速報値、英 5 月サービス業 PMI 速報値、22 日に NZ 第 1 四半期小売売上高、英 4 月小売売上高、独 5 月 IFO 景況感指数などが予定されている。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。